

紀の川洪水予報連絡会

資料配付

配布日時

平成12年4月3日(月)

14時00分

件名

もし 150年に1回の洪水が起き 堤防が破れたら・・・

「紀の川洪水氾濫シミュレーション」結果

取り扱い

同時配布

和歌山県政記者クラブ
和歌山県地方新聞記者クラブ
和歌山県政放送記者クラブ

問い合わせ先

〔紀の川洪水予報連絡会 事務局〕

建設省 近畿地方建設局 和歌山工事事務所

調査第一課長 仲村 学

(TEL 073-424-2471)

◎公表のねらい

紀の川は、その源を日本最多雨地帯でも知られる大台ヶ原に発し、中央構造体に沿って紀伊半島の中部を貫流し、和歌山市において紀伊水道に注いでいます。

この川は台風の常襲地帯に位置し、過去にも度々水害を起こしています。そのため江戸時代より治水対策が行われてきましたが、昭和に入ってから大きな被害を出しています。

近年、重大な水害は発生していませんが、紀の川流域においても人口や資産の集中・増加がみられ、ひとたび水害が発生すれば甚大な被害が発生する可能性があります。

そこで、建設省では、紀の川において万一破堤などの洪水が発生した場合の被害の大きさを把握するため、洪水氾濫シミュレーションを実施いたしました。

紀の川洪水予報連絡会は、シミュレーションの概要をご紹介し、流域住民のみなさんに洪水氾濫による危険性について知っていただくことにより

- 自分の住んでいる地域における洪水氾濫による浸水被害の程度について認識を深めて頂く。
- 水防への関心を高め、緊急時の水防及び避難活動等に活用して頂く。
- 水害に強い生活様式への工夫にも役立てて頂く。

ことを願って本パンフレットを作成しました。

◎パンフレットの特徴

○平成6年度に建設省近畿地方建設局和歌山工事事務所が公表している「洪水時にあなたの街は本当に大丈夫」の続編（詳細版）として公表するものです。

○和歌山市編、那賀郡編、伊都郡・橋本市編及び五條市編の4分冊として作成。

○平成6年度に公表したパンフレットとの違いは

- ・堤防が決壊した場合の氾濫水の拡がり状況を時系列的に表現。
- ・想定している破堤地点から氾濫した場合に、各地域の主要な場所において、どの程度の水深になる可能性があるのかについて、フォトモンタージュを作成。
- ・想定している破堤地点のいずれかが決壊してから、浸水時に避難が困難になり始める水深といわれている浸水深50cmに達するまでの最短時間を表現。

◎パンフレットの配付先

配布先 ※各市町の防災担当窓口

和歌山市	消防局	警防課	2,000部
橋本市	消防本部	警防課	900部
五條市		庶務課	600部
岩出町		総務課	800部
桃山町		総務課	100部
貴志川町		総務課	300部
打田町		総務課	200部
粉河町		総務課	300部
那賀町		総務課	100部
かつらぎ町		総務課	300部
高野口町		総務課	300部
九度山町		総務課	100部



▶ JR和歌山駅 氾濫前

▶ JR和歌山駅 氾濫後 浸水深約2.0m



▶ 南海和歌山市駅 氾濫前

▶ 南海和歌山市駅 氾濫後 浸水深約3.7m



▶ 中ぶらくり丁 氾濫前

▶ 中ぶらくり丁 氾濫後 浸水深約8.8m